

新型コロナウイルス感染症に対応する 孤独・孤立対策等の政府の動き

WORK!DIVERSITY カンファレンス

2021年3月5日(金)

厚生労働省社会・援護局

地域福祉課地域共生社会推進室長

唐木 啓介

新型コロナウイルス感染症の社会への影響

1. コロナ前後の状況

	コロナ前	コロナ後
完全失業者数 <small>総務省「労働力調査」</small>	2019年平均 合計:162万人 男性:96万人 女性:66万人	2020年平均 合計:191万人 男性:115万人 女性:76万人
自殺者数 <small>警察庁HP「自殺者数」</small>	2019年 合計 20,169人 男性:14,078人 女性:6,091人	2020年 合計:21,077人(+908人) 男性:14,052人(▲26人) 女性:7,025人(+934人)

2. 生活面の不安

内閣府『第2回生活意識・行動の変化に関する調査』

昨年12月(感染症拡大前)に比べて不安が増していること(男女別)

- 全体的に、男性より女性の不安が増している傾向。
- 若年女性**は他の年代よりも、**収入・人間関係・育児・結婚等に関する不安**が増している傾向。

昨年12月(感染症拡大前)に比べて不安が増していること(正規/非正規)

- 全体的に、正規より非正規の不安が増している傾向。
- 非正規の若者**は他の年代よりも、**収入・仕事・人間関係・育児等の不安**が増している傾向。

3. 支援の状況

特に緊急事態宣言期間中には、対面支援が困難等の支援に支障が生じた。

政府における孤独・孤立対策の動き

2月12日(金) 坂本哲志内閣府特命担当大臣に対し
孤独・孤立問題を担当するよう菅総理から指示

2月19日(金) 内閣官房に**孤独・孤立対策担当室を設置**
※31人体制



2月25日(木) 孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、つながるための**緊急フォーラム**

菅総理

- 新型コロナの長期化する中であって、人と人とのつながりを保つことがより一層差し迫った状況にある、改めて、孤独を感じ、社会的に孤立している状況にある方々の厳しい状況を、身に迫る思いとして受け止めた。
- 様々な支援活動は用意されているものの、その制度の隙間に落ちている、あるいは支援があるのに知るすべを持たない、そのことが更に、孤独・孤立を高めているのではないか。
- このコロナ禍で厳しい状況にある今だからこそ、社会的に孤立し、不安を感じる方々に、官民や民間同士がそれぞれの垣根を越えてつながりを深め、社会全体で手を差し伸べていくことがより必要になっている。
- 様々な支援が、孤独を感じ社会的に孤立する方々に行き届くよう、関係省庁における連絡調整会議を立ち上げ、坂本大臣を中心に、政府としてもしっかり支援をしていきたい。

<今後の方針>

関係省庁による連絡調整会議の立ち上げ

5月 社会的な孤独・孤立問題の**対策をとりまとめ**



6月 政府の経済財政運営の**基本方針への反映**を目指す ※与野党でも精力的に議論が展開

厚生労働省における孤独・孤立防止に関連した施策について

地域におけるつながり強化や自殺防止、高齢者の介護予防・見守り、子どもの見守り、生活困窮者等への支援など、孤独・孤立防止に関連した施策を推進。

自殺防止

- ・ SNSの活用等を含めた相談支援の体制強化
- ・ 支援情報検索サイトの活用



生活困窮者等への支援

- ・ 生活困窮者自立相談支援機関等における包括的な支援



ひきこもり支援

- ・ ひきこもり状態にある者や家族等への相談支援、居場所づくり等



地域におけるつながり強化

- ・ 地域における包括的な支援体制の整備



高齢者の介護予防・見守り

- ・ 高齢者の通いの場の推進
- ・ 地域支援事業における包括的支援

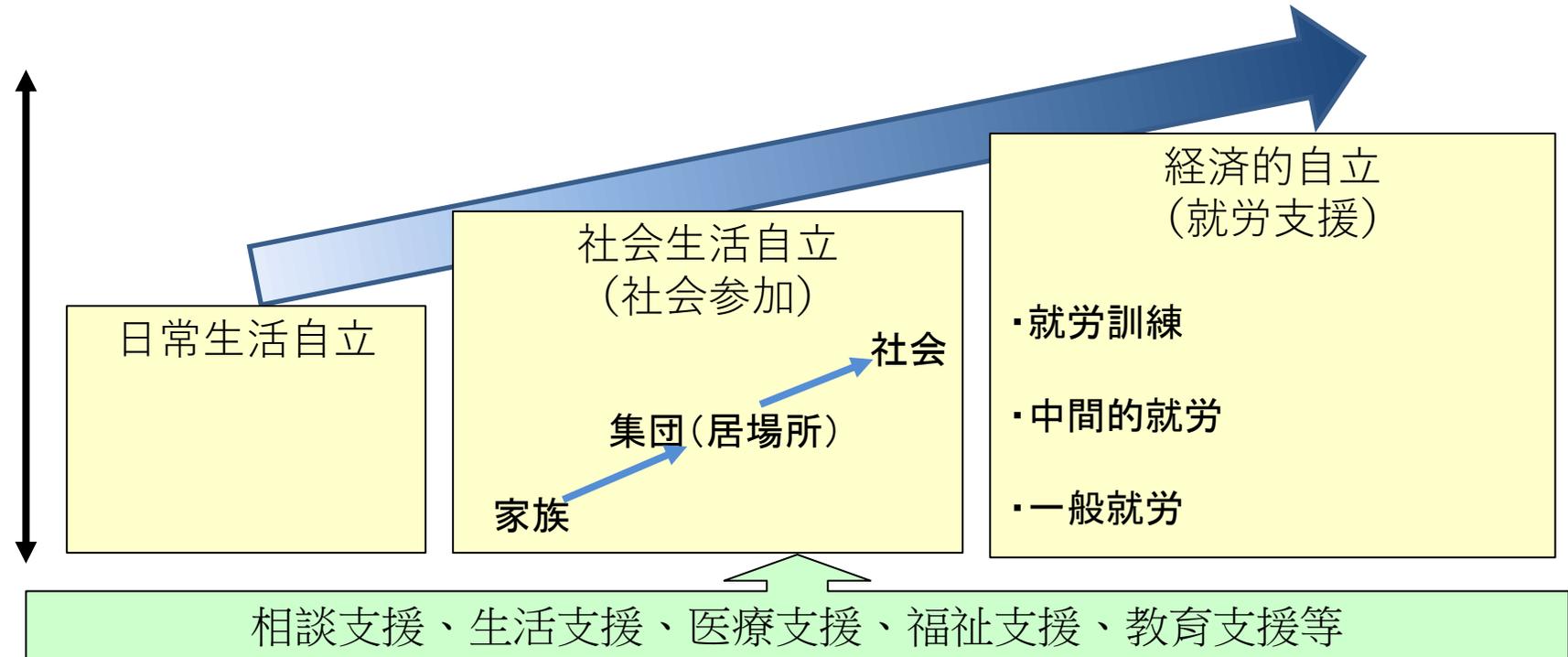


子どもの見守り

- ・ 子ども食堂等と連携した見守り強化
- ・ 子どもの生活・学習支援



働きづらさを抱える多様な方々への支援



<今後の方向性>

- 孤独を感じる方への**つながりを深める支援**の確保
- 自立に向けた**多様な就労支援**の確保
- 地域共生社会の実現**(誰もが「支え」「支えられる」社会の実現)